



南部町立南部中学校 学校だより 第11号

# 千一ム南部中

令和元年 9月9日(月)  
校長 望月和彦

## 第9回輝城祭まであと5日！



令和になって初めての学園祭である第9回輝城祭を、9月14日(土)・15日(日)に開催いたします。今年度のテーマは「つなぐ」。生徒会から出された実施要項には、このテーマの意味が次のように書かれています。「伝統を未来へつなぐ。学級、学年、学年と学年をつなぐ。一人ひとりの思いをつなぐ。南部中と地域をつなぐ。過程からつくりあげ、本番へとつなぐ。」私なりに解釈すると、来年度に統合後10周年を迎える南部中に、今まで創り上げてきた南中文化を継承するとともに、学級や学年を越えた生徒と生徒の深い絆をつくり、学校と地域の結びつきを深めていきたいということです。さらに、本番当日が成功すれば良いのではなく、話し合いや準備や練習などを含めた取り組みの中で、生徒一人ひとりや集団の力を高め、これからの生活の中に活かせるものにしてほしいという願いが込められています。

輝城祭に向けた生徒会の取り組みは6月からスタートし、実行委員会が中心になり、テーマや今年度の内容、組織、取り組み計画などが決定しました。大枠が決まると、夏休み前から各学年や学級、

部門の具体的な内容や取り組みが始まりました。夏休み中も、各学年発表(演劇など)や学年展示の取り組み、5つの部門の取り組み、吹奏楽や美術文芸は当日の発表や展示に向けた取り組み、3年生はオープニングの練習など、部活動や学習会と並行しながら生徒たちは取り組みを進めていました。特に、生徒会事務局のメンバーは、各学年や各部門の取り組み状況を調整しながら、2学期からの詳細な計画をつくったり、開閉祭式の準備をしたり、縁の下の力持ちとして活動してくれていました。

8月26日に2学期がスタートすると、学校は本来の賑やかさを取り戻すと共に、「輝城祭モード」一色になりました。学年発表、展示の取り組みに加え、体育部門の種目練習や全校合唱練習も始まりました。急激に忙しい毎日となっている中でも、生徒会事務局をはじめ、各部門の正副部門長、学級役員や学年生徒会役員などのリーダーたちが中心になり、全体やメンバーに指示を出したり、アドバイスしたりしながら全校一丸となって取り組んでいます。すべての教職員も、生徒たちに輝城祭の中で達成感や満足感、感動を味わってほしいという思いで生徒と一緒に活動しています。今は南部中の一年間の中で、生徒も教師も最もエネルギーに躍動している時を迎えています。本番当日まであと5日。生徒たちや教職員の体調や健康状態にも細心の注意を払いながら、最大限の取り組みと準備をさせて、本番を迎えさせてやりたいです。

どうか、保護者や地域の皆様には、輝城祭にご来校いただき、統合9年目の本校生徒たちのあふれるパワーと成長した姿をご覧になり、応援していただければ幸いです。



## 5年目を迎えた「内船歌舞伎」の取り組み

本校では、平成27年度から輝城祭の中で南部町の伝統芸能である「内船歌舞伎」に取り組んでいます。内船歌舞伎は、南部町内船地区に江戸時代から受け継がれてきた伝統芸能で、現在は内船歌舞伎保存会によって継承されています。保存会では、後継者を育てるために、「子ども歌舞伎」という形で内船地区の子どもたちに伝えてきたのですが、少子化の中で内船地区だけで演じる子どもを探すことが困難になり、南部中生徒に協力してもらえないかという依頼がありました。本校はコミュニティ・スクールとして、地域の力を教育活動に取り入れたり、生徒たちが地域に貢献したりする機会を探していました。地域の願いと学校の願いが一致して、「内船歌舞伎」を中学校の輝城祭で取り組むことになったのです。学校と地域をともに盛り上げるという観点から、学校では輝城祭で1年生が発表するのですが、12月に行われる歌舞伎保存会定期公演でも輝城祭と異なるキャストで1年生が発表させていただいています。



今年度も夏休みから歌舞伎保存会の方々が学校に来てくださり、1年生の演技を指導してくれています。7月23日から夏休み中は合計8回、2学期になってからもすでに7回、読み合わせから、立ち稽古、歌舞伎独特の言い回しや細かな所作の指導など、本当に熱心に教えてくれています。教えていただいている1年生も楽しみながら、難しい演技に意欲的にチャレンジしています。

稲葉学年主任曰く、かなり良い出来映えになっているようです。保存会の皆様には当日までもう少しお世話になりますが、ご指導よろしく願いいたします。1年生には感謝の気持ちを持ちながら、南部町の伝統芸能の継承者として、精一杯演技してくれることを期待しています。

## トリアージ訓練

9月1日(日)、南部町防災訓練が行われ、富河地区の生徒たちが、農村環境改善センターで行われたトリアージ訓練へ参加しました。トリアージ訓練とは、多数の負傷者が出たときに、重症度に基づいて治療の優先度を決定、選別し、効率的に救急救命を行う訓練のことです。過疎化や高齢化の進んでいる本町では、地震などの自然災害の時には、中学生も大切な地域の力になることができます。生徒たちはトリアージの方法について説明を受けた後、負傷者役になったり、搬送や介助の災害ボランティア役になったりして、万が一の時に、地域の力となるための知識と技術を学びました。



## 交通安全・防犯弁論大会

9月5日(木)身延地区公民館身延分館において「南部警察署管内交通安全・防犯弁論大会」が開かれました。本校代表として、交通安全の部に宮下千宙さん(1年)と五十嵐綾乃さん(3年)、防犯の部に遠藤楓乃さん(2年)と成瀬聡貴くん(3年)が出場しました。交通事故を無くすためには、犯罪やいじめを無くすためには、私たちはどうしたら良いのかを、中学生の立場で考え、大勢の聴取者に自分の考えを精一杯伝えました。本校代表の4人にとっては、大勢の前で自分の考えを伝える貴重な経験になったと思います。

遠藤楓乃さんは、防犯弁論の部で優秀賞を受賞しました。

蒙軒ホールでの  
プレ発表会→

